

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	在宅終末期ケアにおける多職種連携の実態調査 (第 3 報) チームリーダーの状況
演者名	藤田淳子 1)、乙黒千鶴 1)、辻村真由子 2)、池崎澄江 2) 福井小紀子 1)、安東いつ子 3)
所属	1) 日本赤十字看護大学地域看護学領域 2) 千葉大学大学院看護学研究科 3) 別府市医師会訪問看護ステーション

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5

目的

医療と介護のチーム連携には、異なる職種間の橋渡しやチームを引率するリーダーシップの役割も重要であると考えます。そこで、第 3 報の目的は、チームリーダーの実態について明らかにすることとした。

方法

調査方法は第 1 報参照。調査内容は、①利用者の特性、および②チームリーダーについて、「利用者・家族の意向に沿った終末期ケアを実現するためにチームのリーダーシップをとっていたと思う職種」を尋ねた。分析方法は、チームリーダーと回答した職種の一致の有無をみた。さらに、利用者の特性別にチームリーダーと回答された職種の割合を算出し、その傾向を検討した。

結果

63 事例のうち、医師・訪問看護師・ケアマネジャーの 3 職種からチームリーダーに関する回答がそろった 48 事例を分析した。

48 事例のうち、3 職種が回答したチームリーダーの一致状況は、3 職種一致 16 例 (33%)、2 職種一致 24 例 (50%)、3 職種すべて別が 8 例 (17%) であった。

3 職種毎に利用者の疾患による回答の違いをみると、医師は、がんの場合は、医師と回答し (59%)、非がんの場合は、訪問看護師と回答 (53%) する割合が高かった。訪問看護師は、がん・非がんにかかわらず訪問看護師と回答 (52~58%) する割合が高かった。ケアマネジャーは、がんは医師と訪問看護師が同割合 (42~45%) であり、非がんは訪問看護師の割合 (58%) が高かった。利用者の課題による回答の違いをみると、苦痛症状がある場合は、訪問看護師をチームリーダーする割合が多く、介護不足や利用者・家族間の意思不一致がある場合は、訪問看護師やケアマネジャーをチームリーダーとする割合が多かった。

考察

利用者の疾患や症状、介護ニーズにより、チームのリーダーシップ役割の認識が異なっていた。利用者の特性による違いを知ることで、職種間の役割認識の促進につながると考えられた。